

修士論文の和文要旨

大学院 情報システム学 研究科			博士前期課程 情報システム設計学 専攻		
氏 名	横田 卓也		学籍番号 0550043		
論文題目	ユーザーの意思を反映した実世界指向型ライフログシステムの提案と試作				
要 旨					
<p>近年の情報機器の性能向上に伴い、人間の生活を生涯に渡って記録し、記憶支援などを行おうとするライフログシステムが数多く研究されている。これらの研究では動画や静止画情報とともに、それらが記録されたときのセンサー情報を付随させて扱うことでより大きな情報量を得ることを試みているが、これらの情報は客観的なセンサー情報であり、ユーザーがどのように考えたり感じたりしたかという情報は記録には残されていない。人間が思い出を振り返る際にはそのような感覚や感情といった主観的な情報（インフォーマル情報）が重要な位置を占めるものであり、人生を記録するという意味においてライフログが含むべき要素であるといえる。</p> <p>そこで本研究では関連する研究について分析を行った後、以下のようなアプローチでユーザーの主観的情報を取り扱う新しいライフログシステムの提案を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 従来のライフログシステムのデータモデルを拡張し、インフォーマル情報の扱いを可能にした。具体的には、従来の視覚情報に大きく依存していたデータモデルを改め、身の回りの様々な事象に対してユーザーが注意を注いでいた事柄を記録可能にした。また、それらの事柄の間にユーザーが思い描く関連性を表現可能にすることでより主観的な記録を行うことができるようにした。(2) 拡張された新しいデータモデルに対応した記録の取得方法および利用方法を考案した。具体的にはユーザーが集中している出来事の最中には記録に関わる操作を行わないことで本来の思い出の在り方を尊重するとともに、簡易な操作でのしるし付けにより記録を行う方法を提案した。(3) 記録の利用に際してもユーザーが置かれた実世界のコンテキスト情報を仮想的なものに置き換えることで時間や空間を越えて思い出を楽しむことができる方法を提案した。(4) 従来は中央サーバーでの集中管理や処理能力の不十分な携帯端末間でのアドホックネットワークで行われていた共有機構に対し、各家庭にホームサーバーを設置して個人間の通信を中継することで、個人端末の処理軽減や一極集中によるプライバシーの問題への対処を可能にする新しい方式を提案した。 <p>これらのアプローチに基づいてプロトタイプシステムの設計と実装を行い、基本的な機能について動作することを確認した。</p>					